

堺市南区にある市立若松台中学校の校長、古橋章秀さん（54）（堺市北区）は、約30年勤めた福岡県内の銀行を辞め、2023年4月に公募に応じて着任した。まったく畠の違う職場だが、「人を育てる」という意味で、管理職まで務めた銀行員の経験を生かせると考えたという。「人生は50歳からが勝負。自分が一番、活躍できる時期だと思う」と語る。

## Over 50

3

堺市立若松台中学校長 古橋 章秀さん 54

# 銀行員経験 人育てる

出来事があった。

生徒同士のもめごとで、加害者側の男子生徒が相手に謝った。後で校長室に呼んだ男子生徒に、「きみは素直に、ごめんと言った。それはとても大事なことだ」と声をかけ、力を持て余しているように見えたので、「もしよかつたら、柔道を始めてみないか」と説いた。

練習から一緒に帰っていたある日、街角で爆音を響かせて集団走行するバイクを見か

けた。「先生、柔道をやつていなかつたら、僕もあんなふうになつていたと思う」。男子生徒がぽつりと「ぽした言葉が胸に残つた。子どもは、活躍できる場所さえあれば、どんどん伸びていく。柔道を勧めて、よかつた。そう感じた。

古橋さんは福岡県出身で、東京学芸大に進学。中学、高校の体育教員の免許を取つたが、「民間で働くことの方が輝いて見えた」と、卒業後は地元に戻つて福岡銀行に就職した。08年、39歳で課長に昇進。管理職になり、部下から仕事の相談を受ける機会が増えた。「人を支えてあげたい性分なので」、ことん話を聞き、アドバイスをした。

人を育てるについて、関心が強まつた。きちんと学んでみたい。13年に43歳で九州大学院（福岡市）に入り、週間に2日、仕事が終わつてから教育学に関する講義を受け始めた。転勤で福岡を離れた期間の中断を挟み、19年に修了した。

## 自分が一番、活躍できる時期だと思う

「躊躇せずに、技をかけなさい」「分かりました」――。23年12月中旬、堺市西区にある別の中学校の道場で、古橋さんは生徒たちに柔道を教えていた。堺市立中学の部活動は、競技別に拠点校を設けるなどして指導しており、柔道部のない若松台中で柔道を取り組みたい生徒は、約7名離れた拠点校の西区の学校に通つている。

古橋さんは、「生徒にも、一生懸命になれるものを見つけてほしい」と、自身が小学生から続けてきた柔道を通じて生徒と向き合つ。

赴任してまもなく、こんな



▲柔道に打ち込む自校の生徒の練習相手になる古橋さん（堺市西区）で　■生徒に学びの大切さについて話す古橋さん（堺市南区）で

堺市の民間人校長の任期は、1年ごとの更新で最長3年。今は、任期が終わつた後も、何らかの形で教育現場に携わり続けたいと考えている。「子どもたちに『こんな生き方もあるんだ』ということを示したい。そのために自分もまだまだ学び続けます」。まつすぐなまなざしで、先を見据えた。

（松本慎平）

在学中、担当教授から学びを生かす道として提案されたのが、民間人校長だった。もともと、一つの職場で人生を終えるよりも、新たな仕事にチャレンジする道を選びたいと考えていた。偶然、知人が堺市教育委員会の募集を見つけてくれたので、応募した。

□ ■

銀行員として、事業に成功した人、失敗した人、家庭の主婦にも会つてきた。いろいろな立場の人と接して社会の実情を見てきた経験は、これから社会に羽ばたく子どもの指導にも役立つはずだ。「学校での学びが、社会につながるようにしてあげたい」

23年12月上旬にリモートで実施した全校集会では、生徒がいる各教室のモニターとつながつたカメラに向かい、「これから時代は、自ら考えて学ぶ」ことが大切です。一生、学び勉強し続ける気持ちを忘れないでください」と語りかけた。

堺市の民間人校長の任期は、1年ごとの更新で最長3年。今は、任期が終わつた後も、何らかの形で教育現場に携わり続けたいと考えている。「子どもたちに『こんな生き方もあるんだ』ということを示したい。そのため自分もまだまだ学び続けます」。まつすぐなまなざしで、先を見据えた。